

令和4年度「多様な広域連携促進事業」を活用した 3市連携による検討成果をとりまとめました

隣接し生活圏・経済圏を深く共有する相模原市（提案市）、八王子市及び町田市（連携市）の3市で、国（総務省）の支援を受けて検討に取り組んだ「多様な広域連携促進事業（※）」について、この度、令和4年度の成果報告書を取りまとめました。

※人口減少・少子高齢社会において、様々な資源制約が顕在化し、住民ニーズや地域課題が多様化・複雑化する中、地方公共団体が人々の暮らしを支える行政サービスを持続可能な形で効果的・効率的に提供していくため、地方公共団体間の多様な広域連携を促進することを目的とした国の委託事業



成果報告書は下記ホームページからご覧いただけます。

URL：<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/rennkei/001/p032454.html>

取組の内容

①現状及び将来を見据えた課題 についての基礎調査

3市の行政需要や経営資源等に関する長期的な見通しなど客観的データの分析を行い、圏域の未来予測と広域的に解決すべき課題について整理しました。

②3市における公共施設の 共同管理・再編等に向けた検討

効果的・効率的な行政運営に資する公共施設の共同管理・再編等の導入可能性について検討しました。

③圏域における産官学連携体制 構築に向けた検討

圏域における若者人材の確保・育成等を図るために3市と産・学が連携して取り組むべき具体的施策と、その効果・継続性を高める産官学連携体制について検討しました。

④圏域の未来像を見据えた 3市推進体制構築に向けた検討

本事業の成果を活用し、具体的な施策の検討・実施につなげるための3市推進体制の方向性について整理しました。

続きあり

令和5年5月30日（火）には、杜のホールはしもとにおいて、八王子市・町田市・相模原市の首長が集い、「令和4年度多様な広域連携促進事業」の成果を踏まえ、「圏域の未来像」などについて意見交換を行いました。

そして、3市それぞれの魅力や強みを生かし、公共施設の相互利用や産官学連携体制の構築など、様々な分野で密に情報交換を行いながら、3市の連携を深めていくことや、将来に向けて、DX分野における新たな技術への対応や、リニア中央新幹線開業を見据えた定住施策等の必要性について確認しました。

